

# きくまつり

大泉音頭



菊の子汁づくり



紙風船上げ



本校の伝統行事「きくまつり」が行われました。この日は、開校を祝う会、大泉音頭、菊の子汁作り、菊の鑑賞会、風船上げと、盛りだくさんの一日になります。開校を祝う会では、毎年卒業生の方に依頼して、講演をしていただきます。今年は、64回生で、薬の研究をされている會田さんに来ていただきました。小学校時代の思い出や将来の夢、そして『感謝』で世界をつなぐをテーマに日本と世界とのつながりについてお話を伺うことができました。

次に、大泉音頭です。菊の園に伝わる大泉小の伝統となる踊りです。情報委員会の太鼓や踊りに合わせて、みんなが輪になって踊ります。大泉小の歴史がつながりみんなの気持ちが一つになる時間です。

菊の子汁作りでは、生活団(学年縦割りグループ)で育ててきた野菜で菊の子汁を作ります。菊の子汁とは、一般的な豚汁ではありますが、きくまつりに作るその鍋のことです。中に入れる野菜はもちろん各団で採れた作物のみ、菊の子にとっては特別な思いのこもった一つの鍋なのです。野菜を切る係、火をおこす係など分担して、生活団ごとに作ります。菊の観賞会では、これまで育ててきた一人一鉢の菊を観賞します。小学生が作るので、なかなかうまく育たないこともあります。大切なのは、どんな気持ちで育ててきたのか、ということです。その思いをみんなの前で一人ずつ話し、それを聞くのも観賞会で大切にしています。学年ごとに、思いがあって、それをふりかえることは、自分の成長についても見つめられるはずです。

最後は、風船上げ。この風船には一人一人の願い事が書かれています。願いが天まで届くように、一斉に上がる様は圧巻です。そして数日後、学校にお便りが届きます。「小学生の夢を見て、日本の 将来が楽しみになりました。」という方もいらっしゃいました。菊の子の夢が更に広がります。